

金沢大学広報誌 | アカサス

Acanthus

No. 32
教育号

Become Global Leaders!

金沢大学でグローバルリーダーになろう

02 【特集】金沢大学で
グローバルリーダーになろう！
10 最新！16 学類 NEWS
12 学長と行く合宿で人間力を強化！

13 CIRCLE&PROJECT
14 CHALLENGE!
15 もっと知りたい！
金沢大学の研究最前線



金沢大学でグローバルリーダーになろう!

金沢大学は、文部科学省スーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業の大学の教育や研究の徹底した国際化を進めています。

採択校として、グローバルな視点を持って世界で活躍できるリーダーを育成するために、

SGUって何?

SGUはSuper Global Universityの略。世界レベルの教育や研究を行うトップ大学や、新しい取り組みに積極的に挑戦し日本の大学の国際化を牽引する大学のこと。

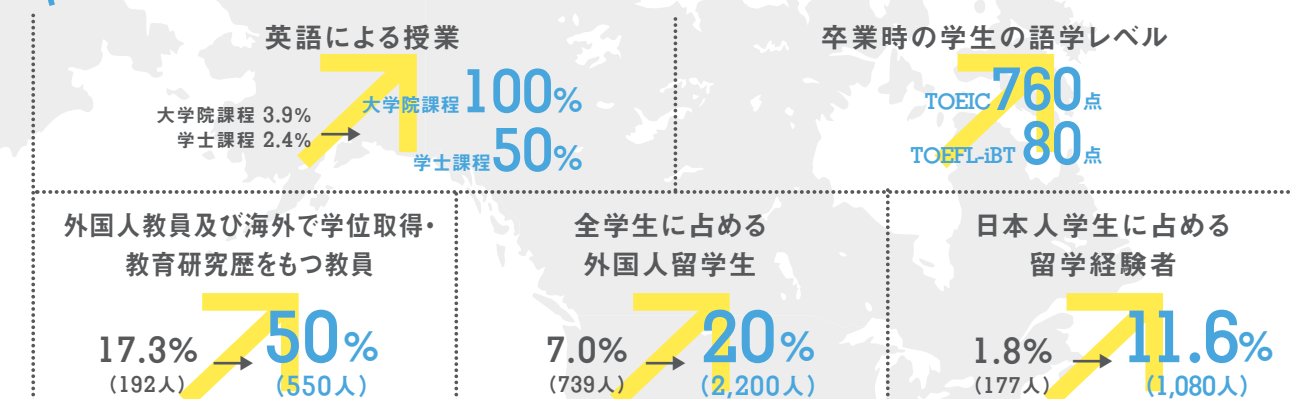
金沢大学のミッション

社会のグローバル化が急速に進む中、さまざまな場でグローバルに活躍できる人材の育成が急務となっています。世界各国でこうした高度人材の育成が戦略的に進められる今、金沢大学は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という大学理念のもと、グローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

Future 10年後の金沢大学



2013→2023 数字で見る! 10年後の目標



Pick up

共通教育が変わる! [平成28年度から]

入学してまず学ぶのは「共通教育科目」。すべての学生に必修となっている同科目が「GS(Global Standard)科目」を中心として新しくなります。「GS科目」とは、本学が掲げたKUGSを身に付けるために用意した科目。これまで、ほぼ本人の選択となっていた共通教育科目について、GS科目等を設定し必修とすることにより、学生の基礎力を着実に育てます。

共通教育科目	
全員必修	【自由履修科目】 人間力強化プログラムなど
【GS科目】 【GS言語科目】 【導入科目】	【学域・学類指定科目】 初習言語、基礎科目など
コアパッケージ	

4学期制スタート! [平成28年度から]

金沢大学は、平成28年度から全学一斉に4学期制を導入します。4学期制は海外の大学では主流であり、金沢大学もこれに合わせることで、学生が海外の大学で多く企画されている3ヵ月程度の短期プログラムに参加しやすくなるなど、留学しやすい環境を整えます。また、外国人留学生も留学しやすくなるので、キャンパスの国際化も一層進むことが期待されます。

4・5月/1学期	講義	海外インターンシップ
6・7月/2学期	海外派遣プログラム	講義
8・9月/夏休み		語学研修
10・11月/3学期	講義	
12~2月/4学期	海外派遣プログラム	海外インターンシップ(翌年5月まで)
3月/春休み		

例1 例2

スーパーグローバル 英語プログラム [平成27年度から]

本学の大学間国際交流協定校であるアメリカのタフツ大学の<English Language Programs>から派遣されたネイティブの語学教育のエキスパートによる、新しいスタイルの英語学習プログラムです。英語によるディスカッションを軸とした講義や、留学に必要な試験対策(TOEFL/IELTS)などにより、留学先で通用する英語力を身に付けさせます。





副学長×高校生 “SGU” で〇〇を実現

柴田正良副学長,山本博副学長と進学をめざす高校生2名がSGU(スーパーグローバル大学)で学べること, 地域や世界で活躍するための能力について話し合いました。

Q. “SGU”と“SGH”はグローバル化を加速する?

山本 将来の夢と現時点で進学したい大学があれば教えてください。

上木 僕は金沢大学の医学類を志望しています。幼いころ、風邪をひいた時などに行った小児科での医師のコミュニケーションスキルに感動し、僕も子供と触れ合う医師になりたいと思いました。

阿部 私は昔から自分ではない誰かを表現することに憧れがあり、大学の学びとは直接、関係ありませんが声優をめざしています。

山本 金沢大学にはどんな印象を持っていますか。

上木 ひと言で言えば、「楽しそうな大学」ですね。僕は高校受験の時、金沢大学の医学図書館でよく勉強していました。まわりにいた金沢大生がみんな楽しそうだったのがとても印象的でした。

阿部 私は地方に位置する大学でありながら、世界とつながっているイメージがあります。

山本 金沢大学は昨年、文部科学省の「スーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業」に採択されました。阿部さんの本学附属高校、上木さんの金沢

泉丘高校は「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定されていますね。

阿部 SGUはSGHを発展させたものと理解しています。昨年、SGHの活動をとおり、単に英語や外国語を学ぶだけでなく、異文化とどうつながっていくかを学びました。

上木 SGUでは、これまで以上に異文化を学んだり、外国語のスキルを磨いていくんですか。

山本 そうですね。金沢大学ではSGUに採択される以前から、さまざまな取り組みを行っており、SGUでは、それを発展させることとなります。これまでのグローバル化に「スーパー」をつけたんです。

柴田 「スーパー」は先鋭的に頑張るという意味合いで、徐々に進めてきた取り組みに、一気に弾みを付けようという意気込みです。



英語はただのツール! 完璧を求めないで!!

英語で話した経験って 勉強意欲になりますね



山本 博 副学長
YAMAMOTO Hiroshi

阿部 杏華さん
ABE Kyoka
金沢大学附属高等学校2年

上木 大雅さん
UEKI Taiga
石川県立金沢泉丘高等学校2年

柴田 正良 副学長
SHIBATA Masayoshi

KUGSの能力を全て備えた世界のリーダーを育成します

高校での能動的な学びが大学で大きく広がる教育システムに期待します

世界での学びを後押しする金沢大学の構想って素晴らしい!

各領域の魅力を伝え、ワクワクする授業を提供していきます

Q. 学士課程の50%が英語授業に!?

山本 これまでの取り組みを挙げると、学生・留学生宿舍「先魁」は日本人学生と外国人留学生在が共同生活し、日本にいながらにして異文化に触れ、国際感覚を磨くことができます。金沢大学が国際交流協定を結んでいる海外の協定校は現在、約200機関あり、外国人留學生も50ヵ国から700名以上になります。今後は、外国人留學生を千〜2千名に増やす計画です。

柴田 そして、目標としては、10年後には英語による授業の割合を学士課程で50%まで引き上げたいと考えています。英語の授業だけでなく、さまざまな科目が英語で行われることになるんですよ。

阿部 英語が苦手だと、他の科目も苦手になりそうですね(笑)

上木 僕たちの英語力では大半の授業についていけないかもしれません(笑)。でも英語の授業を増やすのはいいことだと思います。今年、泉丘高校に台湾の生徒たちが訪れた際、英語で話したのですが、「いま、僕は外国人と英語で話している!」とすごく感動

したのを覚えています。

山本 そうした感動をとおり、「もっと勉強したい」「もっと交流したい」「外国に行ってみよう」と思ったのではないですか。

上木 はい!

柴田 英語を学ぶことも大切ですが、話す内容も重要ですね。国際化を進める一方で、日本の歴史や文化についての意識と知識を高めていくことも必要なんです。

阿部 附属高校では金沢大学の留學生とグループ・ディスカッションをしていますが、簡単な意思疎通はできても、深い話になると通じないことがあり、高校で習っている英語と実際に使う英語は違うと痛感しました。

山本 SGUの取り組みはすでに始まっており、その一環として、協定校であるアメリカの名門校タフツ大学の協力のもと、学生・教員・職員を対象に英語プログラムを行っています。タフツ大学は1国1大学としか協定を結んでおらず、日本では金沢大学が唯一の協定校なんですよ。

自分の国のことって 意外と知らない..



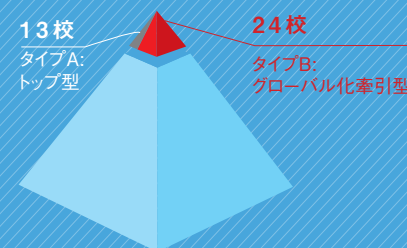
日本語だって大事! 自国を知って 異文化を学んだよ

Keyword

スーパーグローバル大学創成支援事業

世界トップレベルの研究を行う大学や国際化を牽引する大学を重点的に支援する文部科学省の事業。平成26年、金沢大学は同事業のタイプB(グローバル化率引型)24校の中の1校として選定されました。

日本の大学
775校
(平成26年5月1日
文部科学省HPより)



スーパーグローバルハイスクール(SGH)

国内の大学や企業、国際機関等と連携を図り、国際的に活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等をスーパーグローバルハイスクールとして文部科学省が指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を支援する事業。

授業科目の英語化

学士課程教育の国際化を図るため、本学国際学類のこれまでの多彩な国際プログラム実績を他学類へ波及させ、国際化を加速し、10年後に学士専門課程で開講する科目の50%を英語で実施します。



Q. 留学すると学修が遅れませんか？

柴田 平成28年度から4学期制を全学一斉に導入します。日本の大学は従来、前期・後期の2学期制が主流でしたが、各学期をさらに2分割して4学期制にし、学期の始まりを年4回とすることで、留学機会の拡大につなげようという狙いなんです。

山本 協定校と単位交換などすることで2つの大学に行きながら、留年せずに所定の期間で卒業も可能になります。いずれ金沢大学の学生50%を海外留学させたいと考えています。そのために現在、年間180人に提供している海外留学奨学金制度をさらに充実させたいですね。

上木 一度、夏休みに留学したいと親に相談してみたら「泉丘はSGHになったんだから、留学してみればいい」と勧めてくれたんです。でも留学中に英語力は上がっても、ほかの科目が疎かになる気がして、なかなか踏み切りがつきません。

山本 早い時点で外国に行くのは大事なことです。日本語が通じない環境に身を置いて行動することを経験すると、知らないといけなことがたくさん分かって、モチベーションが高くなります。

柴田 金沢大学ではいずれ、SGHの活動で視野を広げて能力を付けた高校生を入

学させたいと考えています。

山本 「SGH枠」といったような入試枠を設けたいですね。

阿部 昨年、SGHの活動でプレゼンなどをして、本当に頑張りました。だから、それが評価されるのはうれしいです。大学入学後、SGHで培った能力を使えたら、もっといいですね。

柴田 いまの入試制度は知識量や計算問題の処理能力は測れても、プレゼンする能力などは測れません。課題を発見して、みんなでディスカッションして解答を見つけ、プレゼンする能力を測る、あるいは高校時代のSGHなどの活動を細かく丁寧に評価する高大接続の入試システムを構築したいと思います。



金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS)



金沢大学は、各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける次の能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

1. 自己の立ち位置を知る

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力

2. 自己を知り、自己を鍛える

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

Q. グローバルリーダーの能力って？

山本 金沢大学は、本学の卒業生が備える5つの能力を人材育成の目標とする「金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS)」を策定しました。それぞれの能力を養成するために、グローバル・スタンダード科目を、共通教育のそれぞれの分野の第一人者が英語と日本語で教えます。

柴田 KUGSでは、従来の授業のように一方的に知識を教えるのではなく、すべての科目でアクティブ・ラーニングを導入しています。授業の主役は教員ではなく、学生なんです。

山本 グローバルな能力とはどのようなものだと思いますか。

阿部 海外から取り入れたものを自分たちのものと合わせて、いかに新しいものを作り出していくかがグローバルな能力ではないでしょうか。それには先陣を切る人が必要で、そんなリーダーが金沢大学から生まれることは素晴らしいですね。

上木 ささまざまな意見を参考にする協調性も大切だと思います。僕は国内だけでな

く、医療の行き届いていない発展途上国の子供たちのために働きたいという気持ちがあるんです。

山本 日本の若者がみんな上木君のように考えてくれたら、日本はこれほど内向きの国にはならなかったんですけどね。国がグローバル人材の育成に力を入れる背景には、日本の若者が外の世界に興味を持たないことがあるんですよ。

阿部 外の世界を知らないから、内向きになるのですね。

山本 海外に出ることで未知の価値観とぶつかり、鍛えられることでグローバルな人材に成長できると思います。今日の座談会をとおして、2人の夢に変化はありましたか。

上木 金沢大学のSGUの取り組みを知って、国際関係の仕事もいいな、と思うようになりました。

阿部 私は高校で取り組んだSGHでの学びが、大学でも続けられることがわかって、とても安心しました。



Keyword

4学期制

学生が国際感覚を持つためには短期であっても海外で学ぶことが大切です。海外留学をしやすくするために4学期制を導入し、その成果として、卒業時に全学生の50%が海外での学修経験を有することを目標とします。

海外留学奨学金

海外留学をする学生を対象とした金沢大学独自の奨学金を設けています。本学の派遣留学制度や語学研修に参加する学生だけでなく、個人留学やインターンシップ、ボランティアなどで海外に行く学生を対象とする奨学金もあります。

アクティブ・ラーニング

教員が一方的に学生に知識伝達する講義スタイルではなく、課題研究やディスカッション、プレゼンテーションなど、学生の能動的な学修を取り込んだ授業スタイルのこと。

P14に関連記事

人間力強化プログラム

KUGSで掲げる5つの能力・体力・人間力を備えた人材を育成するため人間力強化プログラムを導入します。学生は海外派遣プログラム、地域「超」体験プログラムのうちいずれかを卒業までに履修することが求められます。

P12に関連記事



もう始まっています! 金沢大のグローバルズム



日本人学生と留学生がともに学ぶ 日本文化・社会プログラム

日本について学ぶ場として、交流の場として

金沢大学国際機構留学生センターでは、留学生の「日本」への理解を一層促すため、日本文化・社会を知識と体験の両面から学べる「日本文化・社会プログラム」を実施しています。このプログラムは、武道、茶道、金沢市の伝統文化である能楽（加賀宝生）や焼き物（大樋焼）を体験

する授業、さらには「日本の家庭」や「ジェンダーと社会」など、いくつかの体験型および講義型授業科目を含み、留学生が自分の関心のもとに選択することができます。また、留学生と日本人学生がともに学ぶ「ジョイントクラス」でもあり、両者が互いに交流を深める場にもなっています。



調理実習では日本の家庭料理「肉じゃが」作りに挑戦



「日本の家庭」コース — テーマは「家族の絆」

「日本の家庭」は、学校教育学類開講科目「家族関係学」と一部合同実施しています。学生は、現代日本の衣・食・住、そして教育を支える家庭の機能について理解を深め、また、学内での講義・個人研究の発表・ディスカッションに加え、金沢市内の学童保育クラブへの訪問や、家庭料理の調理実習を行ったりします。



世界を体感し、国際感覚を養う 短期海外研修

実際に現地に行ってグローバルな視野を身に付ける

短期海外研修は金沢大学の海外留学制度の一つ。海外の交流協定校や企業で、国際ビジネスを体験できる研修や、実践重視のインターンシップなど、多様なプログラムを実施しています。


Cambodia
(カンボジア)

アンコール遺跡整備公団インターンシップ

国際業務で活躍できる人材の育成を目的として、人間社会学域国際学類と環日本海域環境研究センターが共同で実施している海外インターンシップ。平成22年にアンコール遺跡整備公団と大学間国際交流協定を締結したこと

を機に毎年実施しており、今年で6回となります。8月後半から約2週間かけて行われるインターンシップは、世界でもまれな、人の暮らし世界遺産「アンコール世界遺産公園」が舞台。遊歩道の整備や水環境・森林環境の維持管理、観光客向けインフラの整備といった業務に公団職員とともに従事します。



遺跡で公団職員から説明を聞く


China
(中国)

北陸銀行・金沢大学トレーニー派遣プログラム

学生の国際的視野を広げ、国際感覚を養うことを目的として、包括連携協定締結企業である北陸銀行の協力のもと、平成21年から実施している中国でのキャリア研修です。3泊4日で中国の主な都市を訪れ、現地に進出している北陸の企業を訪問。ものづくりの現場を視察し、また、現地で働いている方々と直接話をすることで国際的な経済の動きを肌で感じます。



大連ソフトウェアパークを視察

金沢大学ではこれまでもグローバル化に力を入れ、積極的に学生の送り出しや受け入れを推進し、さまざまな支援やプログラムを実施してきました。



共同生活で異文化交流 学生・留学生宿舍「先魁」

Kanazawa University Student Dormitory "Sakigake"

地域や文化の枠を超え、ともに学び生活する空間

平成24年10月、角間キャンパスに誕生したシェアハウス型の学生・留学生宿舍「先魁」。日本人学生と留学生が共同生活する2階建ての住居棟5棟には8人が共同生活するシェアハウスが13ユニットあり、各ユニットには机や本棚、寝具などが揃う専用個室8室と、交流を深めるために設けられた共用スペースが

設けられています。日本人学生と留学生がともに暮らすことで、留学生には日本語の早期習得や日本での安心な生活を、日本人学生には日本にいながら海外の文化・習慣に触れ、国際感覚を。お互いに良い影響を与える「先魁」は、グローバルに活躍できる人材を育む場となっています。



ユニットレイアウト



キッチン隣接の共用スペースは学生達の憩いの場でもある



専用個室はじっくり勉強するには最適な環境



レジデントアドバイザー(RA)は留学生の強い味方

「先魁」に入居している留学生の国籍は多彩。中国、インドネシアなどのアジア諸国をはじめ、メキシコ、ドイツなどから集まっています。そんな彼らの日本での生活をサポートするのが一緒に生活している日本人学生。「先魁」に入居している日本人学生はレジデントアドバイザー(RA)として、留学生が快適で安心な生活を過ごせるよう、生活上のアドバイスや通訳などでサポートします。

International Student

入居したての頃は、特にテレビ、エアコンなどの電化製品のリモコンの操作方法やごみの分別方法などの日常生活のサポートをしてくれました。また、今は私の日本語のスピーチ練習の相手にもなってもらったり、一番身近な日本語の先生でもあります。RAは頼れる存在です。日本での毎日が充実しています。留学期間終了時には帰国するのですが、ぜひ日本で働きたいです!


ヤンネ・ロイサ
Janne LOISA
(フィンランド出身)
留学生

Resident Advisor

留学生には、生活上でのアドバイスのほか、金沢大学での留学生生活を楽しく過ごしてもらえよう、ハロウィンやクリスマスなどのイベントに合わせてパーティを、私たちRAが企画して開催しています。また、留学生へのサポートをとおして、これまで以上にコミュニケーションを自分から積極的に取りにいこうと身についていることを実感しています。「先魁」での生活は、卒業するまで継続していきたいと思っています!


中嶋 優樹
NAKAJIMA Yuki
自然科学研究科
博士前期課程1年


SAKIGAKE INFORMATION

- 定員 104名
- 所在地 金沢市角間町ヌ7番地
- 入居資格 金沢大学の外国人留学生または日本人学生・院生(RA)
- 入居期間 原則6ヵ月または1年

問い合わせ先 学生部学生支援課学生相談係 TEL:076-264-5167 E-mail:soudan@adm.kanazawa-u.ac.jp

最新!

16学類NEWS

人間社会学域

College of Human and Social Sciences

人文学類

高校生のための心理学講座を開催します

毎年、金沢大学サテライト・プラザにて「公開シンポジウム:高校生のための心理学講座」を開催しており、今年も8月1日に心理学入門講義を行います。興味のある高校生の方や、学校関係者の方はぜひご参加ください。お申し込み・詳細は「高校生のための心理学講座 金沢大学」で検索してください。



法学類

法科大学院との連携講演会を開催

元検事で弁護士郷原信郎氏による講演会「政治・経済事犯における検察の捜査・公判と戦略的弁護活動」を開催。日本の刑事司法における検察の位置付けと変化について、先ごろ第1審無罪判決が下された美濃加茂市長事件の捜査・公判過程や、導入が検討されている日本版司法取引に言及しつつ、分かりやすく説明していただきました。



経済学類

ますます進化[深化]する就職支援『講座&合宿』

1年を通じ全4回の就職支援プログラムを実施しています。メイン行事の就活合宿では自己を見つめ直す専門プログラムにより自身の進路を明確化しミスマッチを防止します。その後は学外の専門家を招いたマナー講座やエントリーシート添削講座、さらには本学出身の人事担当者3名による面接講座で就活力を確実に鍛え上げています。



学校教育学類

大学生の健全な食生活の提案 手軽に野菜がとれるスムージー

家政教育専修の学生が、石川県の「平成26年度大学生の健全な食生活への実践活動事業」による活動として、貧血予防、血行改善、安眠などにそれぞれ効果のあるスムージーのレシピを考案し、それを紹介するポップを食堂に設置しました。手軽に野菜や果物がとれるスムージーは、栄養の偏りがちな学生におすすめです。



地域創造学類

地域系学部と高校との連携を深めるシンポジウムに参加

近年、日本各地で設置が進む地域系学部と高校がどのように連携して今後の地域づくりを進めるか、をテーマとしたシンポジウムが鳥取市で開催され、伊藤悟教授が参加。本学類や、金沢大学の先進的な取り組みを紹介しました。他大学地域系学部や高校現場からの質問が相次ぎ、本学類は大きな注目を集めました。



シンポジウムに参加する伊藤教授(右端)

国際学類

恒例の新入生歓迎合宿を実施

4月11日、12日、今年も新入生のほぼ全員が参加し、白山市鶴来にある白山青年の家で新入生歓迎合宿を実施しました。初日の運動会と夕食のカレーライス作りで、新入生たちにはすっかり打ち解けた雰囲気が生まれていました。率先して合宿の企画・運営にあたってくれた2年生の実行委員の行動力にも驚かされた2日間でした。



金沢大学3学域・16学類より最新のとれたて「旬」な情報が届きました!
イベントや近況、注目の研究など
個性豊かな金沢大学の現在を身近に感じてください。

理工学域

College of Science and Engineering

数物科学類

頭脳循環プログラムで 博士後期課程3年生をドイツに派遣

現在、ナノ物理学研究室の大江弘晃さんがドイツ・レーゲンスブルグ大学で約1年間武者修行中です。これは新井豊子教授が主担当の研究テーマ「非接触原子間力顕微鏡／走査型トンネル顕微鏡で拓くボトムアップナノテクノロジー」が平成25年、JSPS「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択されたことによるものです。



武者修行中の大江さん(左端)

機械工学類

日本初! 自動運転自動車による市街地公道走行実証実験の実施

菅沼直樹准教授らの研究室では、平成10年ごろから国内で先駆的に市街地における自動車の自律走行をめざした研究開発を行ってきました。そして、平成27年2月24日から石川県珠洲市と連携し、国内の大学としては初となる実際の公道における自律走行実証実験を開始。現在大きな注目を集めています。 [P15に関連記事](#)



環境デザイン学類

自然科学研究科に巨大クレーンが出現したのを知っていますか?

社会インフラには鋼材腐食やコンクリートのひび割れが多く発生しており、安全・安心な社会の維持のためには、メンテナンスマネジメントの確立が不可欠です。昨年11月、鳥居和之教授らのプロジェクトが内閣府のSIP「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」に採択され、実物大の橋梁をそのまま試験できる載荷装置が3月に完成しました。



大型構造物載荷試験装置

物質化学類

夏休みは化学体験イベントに参加しよう!

8月7日、高校生向けの化学体験セミナー「理学の広場」を開催します。また、8月10日、11日のオープンキャンパスでは身近な題材を取り上げた化学実験体験イベント(光と分子〜光で分子の性質を調べよう〜、高分子材料の不思議、など4テーマ)を実施します。どちらも例年、多数の参加者から好評を博している人気イベントです。



昨年度の「理学の広場」の様子

電子情報学類

新たな科学技術の発展に向け 4名のリサーチプロフェッサー誕生!

優れた研究実績を持ち研究に注力するリサーチプロフェッサーに、田中康規教授(プラズマの精密制御と材料開発への応用)、福岡剛士教授(液中でのナノの世界を見る液中原子間力顕微鏡)、上野敏幸准教授(磁歪材料を用いた振動発電システム)、徳田規夫准教授(ダイヤモンドを用いたパワー半導体デバイス)が選ばれました。



田中教授(左上)、福岡教授(右上)、上野准教授(左下)、徳田准教授(右下)

自然システム学類

大陸飛来物質から大気の動きを考える

松木篤研究室は、能登半島の先端を拠点に、大陸から飛来する大気汚染物質を観測し大気環境や気候への影響を研究しています。さらに、大気サンプルの採取は能登にとどまらず、黄砂発生源の様子を探るためにシルクロードで行った気球観測をはじめ、富士山頂からヘリコプター上まで、地球上のあらゆるフィールドに広がっています。



能登学舎での大気観測の様子

医薬保健学域

College of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences

医学類

生まれ変わる宝町キャンパス

宝町地区の整備事業は、附属病院、医学類教育棟、研究棟の新築・改修を終え、平成27年度末の完成に向けて進んでいます。ケヤキ並木のメインプロムナードが十全講堂から真っ直ぐに伸び、明治期の正門が復元されます。これらに合わせ、金沢市によって、医学類・病院前の用水沿いに、市民の憩いの遊歩道が整備される予定です。



キャンパス完成予定図

薬学類

薬剤師国家試験合格率 全国第2位!

本年3月に行われた薬剤師国家試験において、合格率の全国平均は62.3%の中、本学では86.7%であり、全国73校中第2位となりました。大学病院や市中薬局での充実した実習に加え1年次からの基礎学力、問題解決能力を継続的に養うカリキュラムが結果に表れ、平成23年に6年制の1期生が卒業してから優秀な成績を維持しています。



薬学類・創薬科学類

薬学系企業等説明会を開催

4月18日に薬学系企業等説明会を開催しました。会場には68社のブースが設置され、参加した延べ約500名の学生は、各企業担当者の説明や体験談に熱心に聞き入っていました。今後も学生の就職活動の一助になることを期待し、有力企業で活躍する方々の貴重な話を聞く機会を継続して設けていく予定です。



保健学類

ヒト大脳の神経機能ネットワーク 解明をめざす!

中嶋理帆助教らと医学系脳神経外科は、脳機能の温存・改善のため、覚醒下脳腫瘍摘出術の確立をめざすとともに、新たな神経線維や神経機能ネットワークの解明のため、脳への直接の電気刺激、MRI、ファンクショナルMRIなどを用いた研究を進めています。さらに、作業記憶と運動機能に関わる補足運動野の役割について国際誌に発表しています。



地域「超」体験プログラム

学長と行く合宿で人間力を強化!

学長が直接指導?!金沢大学の「人間力」を鍛えるプログラムを紹介します。



山崎光悦学長

人間としての己を磨く!
専門人としての己を磨く!
グローバル人材としての己を磨く!

学長と行く合宿シリーズ本格始動!

今年度から
単位認定!

昨年度行われた「学長と行く能登合宿」「学長と行く五箇山合宿」が、今年度から共通教育科目「地域「超」体験プログラム」として本格的にスタートしました。この合宿では、主に学類1年生を対象に、座禅や労働・民泊体験などを2泊3日で実施。学長をはじめ、学類を越えて出会った仲間たちと苦楽をともにし自分を見つめ直すことで、社会で求められる総合的な能力＝人間力を強化します。民泊体験では、食事・掃除の手伝いのほか、民泊先の方々と語り合い、地域の文化や暮らしについて理解を深めます。

地域「超」体験プログラム

地域「超」体験プログラムは、金沢大学が進めるスーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業の取り組みの一つで、大学キャンパスを飛び出し、留学生とともに地域の人々と交流する場を学生に与えることで、人間力の向上、異文化理解の促進、地域貢献・協調性を養うことを目的としているもの。「学長と行く合宿シリーズ」もこのプログラムの中での取り組みの一つとして位置付けられています。

今年度は4回の合宿を予定!

合宿での達成目標

- 1.体力と精神力の重要性を理解する
- 2.地域が抱える課題を知る
- 3.グループでの合意形成プロセスを知る
- 4.地域の構成員としての役割を自覚する

人間力強化

ISHIKAWA

TOYAMA

第3回
11月21日(土)～23日(月)
舞台：白山麓

北陸のパワースポット・白山を舞台に、他ではできない薬草収穫などを計画中!

第1回
7月18日(土)～20日(月)
舞台：珠洲

旧小学校校舎である能登学舎を舞台に、山に入り下草刈りや、海沿いでの民泊体験を実施予定!

第2回
9月17日(木)～19日(土)
舞台：小木

本学の臨海実験施設で実習船に乗船しての演習や、縄文時代の真脇遺跡の見学を予定!

第4回
2月11日(木)～13日(土)
舞台：五箇山

本学と包括連携協定を結ぶ南砺市の世界遺産・五箇山をフィールドに、合掌造見学や、郷土芸能体験をとおり、文化を学ぼう!

※ 予定のため、変更となる場合があります。

満足度は
90%

今年の「学長と行く能登合宿」

主なスケジュール

2014年8月10日(日)～12日(火)

【1日目】

8:30 出発
11:00 総持寺で座禅体験
15:00 学長講義

【2日目】

6:30 ラジオ体操で始まる朝
10:00 下草刈りで勤労奉仕
15:00 民泊で地域の方と交流

【3日目】

10:00 報告会



自分を見つめ直す貴重な時間

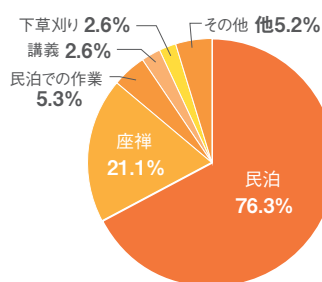


たった1泊でも強い絆が生まれた民泊先との別れ

Q.合宿の感想は?

- ・民泊が一番の思い出。人の優しさに触れ、能登の魅力をたくさん教えてもらった。
- ・下草刈りで、グループのメンバー全員で作業を終えた時の達成感は忘れられない。
- ・学力だけではなく、体力やコミュニケーション能力などの総合的な能力向上に努め、一社会人として持ち合わせておくべき人間力を持てるようになりたい。

Q.合宿で印象に残ったことは?



輝く金沢大生

CIRCLE&PROJECT

金沢大学で活動するサークルやプロジェクトをピックアップして紹介します。

CIRCLE | アイスホッケー部

声を掛け合い、教え合い、全員でうまくなる!

「初心者が多いから、僕にもできるかも」。気軽に参加した活動見学で、鋭いスケーティングやスティックさばきに魅了され、先輩のようになりたいと心から思った人たちが、アイスホッケー部には集まっている。

部員は現在30名。普段は学外のアイスリンクを貸し切るため、練習時間は限られる。練習は円陣を組み気合を入れるところから始まり、スケーティング、パス、シュート、そして模擬試合まで、休まず動き続ける。そんなきつい練習の中にも、先輩と後輩で、同級生同士で、



一緒にエースをめざそう!

部長
赤井 将大さん
AKAI Masahiro
理工学域
数物科学類4年

ときにはOBとも、声を掛け合い、教え合う雰囲気があった。アイスリンクが使えなくなる夏には、角間キャンパスの広くて坂が多い地形を利用し、走り込みや、ローラースケートなどの陸上トレーニングで基本を身に付ける。

こうした努力が実を結び、4年前、初心者だったメンバーたちが皆、立派なエースへと成長していく。「4年生全員がエースです」と部長の赤井さんは胸を張る。昨年の北信越大学アイスホッケーリーグで見事に優勝を手にした彼らの、今後の活躍にますます注目したい。



先輩からの熱心な指導



模擬試合では周囲からの声飛び交う

CIRCLE | 鉄道愛好会

鉄道から社会を学び、鉄道の魅力を社会に伝える

鉄道愛好会は、鉄道を愛する学生13名の集まりだ。週に1度、食事をしながら情報交換を行い、普段は乗車、撮影、模型や切符収集などそれぞれ鉄道を極める。そんなベースが心地よいようだ。ゆったりした印象の彼ら、実はただ者ではない。北陸新幹線の時刻表の公表以前に、少ない情報をもとに時刻表を予想し、ほぼ正確に作り上げてしまうほど、鉄道を知り尽くしている。また、北陸新幹線開業の利便性や車体の魅力を熱く語ると同時に、関西方面までの延伸や在来線の利用者増加の必要

性といった今後の課題に言及。さらには来年の北海道新幹線開業が北陸に与える影響についても力説し、鉄道をとおして社会を見つめている姿勢がうかがえる。また、鉄道の魅力を広く地域に伝えながら地域の方々との交流を深める機会として、春と秋には金沢大学サテライト・プラザで、11月には金大祭で展示会を行っている。撮りためた写真や、集めた模型、実際に触れることのできるプラレールもあるので、足を運んでみてはいかがだろう。



毎年発行している
会報「X'Press」



見て、触れて楽しむプラレールコーナー

Q.鉄道愛の原点は?

小学生のときの友人との鉄道旅行

高校のときの電車通学

子どものころもらったプラレール

会長
大岩 祐貴さん
OIWA Yuki
人間社会学域
法学類3年

金原 良和さん
KANAHARA Yoshikazu
人間社会学域
地域創造学類4年

村田 由裕さん
MURATA Yoshihiro
人間社会学域
地域創造学類4年



CHALLENGE!

金沢大学はアクティブ・ラーニングで未来の「学び」をデザインします!

今,大学で重要性が問われている「学生が何をできるようになったか」を基準とした学生中心の教育。そのカギとなるアクティブ・ラーニングという学修手法で,金沢大学は新しい教育の実践に挑戦します。

アクティブ・ラーニングって?

アクティブ・ラーニングって何?

これまでの一方向的な「教員→学生」といった単なる伝授による知識の記憶・理解ではなく,「学生⇄学生」や「教員⇄学生」で学んでいることについて,話し,書き,発表しあい,評価しあうといったあらゆる能動的な学修のこと。

アクティブ・ラーニングでどんな力が身に付くの?

話し,書き,発表し合うといったプロセスの中で,他者と協働して考える「協調性」や「多面的なものの見方」,自身の学修の達成度を振り返り,その課題と解決策を見つける「考える力」といった,社会で活躍できる力が身に付きます。

先を見通すことが困難な現代社会で必要とされているのは,答えのない問題に取り組み,さまざまな人と協働して解決策を見つける能力,いわば「社会を作り出す能力」です。
金沢大学はこの能力を備えた学生を,アクティブ・ラーニングを中心とした**3つのアプローチ**で育成します。

3つのアプローチ

1

教員の参考となるような優れたアクティブ・ラーニング(AL)型授業を収集・カタログ化するとともに,AL手法を広める教員を育成することで,その深化・充実を図ります。

2

ディスカッション等に適した教室や,教員と学生をつなぐアクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALでの学び方を支援する学生)の養成といった学修支援環境を整備,活用します。

3

「ALによって,学びがどれくらい深まったか?」について,学生の自己評価や成績などを組み合わせ,評価する方法(指標)を開発します。それらを学生1人ずつの記録としてまとめ,可視化することにより,学生は自身がどれくらい学んでいるかを振り返ることが,教員は自身の教育方法・内容の改善への手がかりとすることができる仕組みを作ります。



東海・北陸エリアの国立大学で唯一!

これらの3つのアプローチを中心とする金沢大学の教育改革の取り組みが,平成26年度文部科学省大学教
育再生加速プログラム(AP事業)に採択されています。

AP事業:APはAcceleration Program for University Education Rebuilding の略。国の進める大学教育改革を促進させる,先進的な取り組みを行う大学を支援するための補助事業。

金沢大学AP事業 <http://apuer.adm.kanazawa-u.ac.jp/>

もっと知りたい!

金沢大学の研究最前線

～自動運転自動車プロジェクトのこれまで,そして,これから～

金沢大学では,文・理・医学系の研究者が集い,地域の特色や強みを生かした先進的な研究が多彩に行われています。今回はその中でも国内の自動運転研究をリードする本学の自動運転プロジェクトを,学生が直撃取材しました。



先生はどんな研究をしているんですか?



自律型自動運転自動車の実用化に向け,研究をしています。この車はずばり,「目的地を設定するとそこまで自動で連れて行ってくれる」車です。

取材MEMO

「おもしろいから」そんなシンプルな理由で研究を続けはや17年目!



菅沼 直樹 准教授
SUGANUMA Naoki
新学術創成研究機構



どんな仕組みなんですか?



車についているレーザーやレーダーで周辺環境を認識し,車載のコンピュータでその情報を処理することで,進む,曲がる,よける,などの運転を車自身が行います。

取材MEMO

混雑した街中での自動運転に不可欠な追い越し技術や交差点の安全走行技術の開発にもすでに成功!

学生たちに聞いてみました!

菅沼先生ってどんな人?

厳しい面もあるけれど,親身になって指導してくれる尊敬できる先生です。



菅沼先生と研究室の学生たち

自動運転プロジェクトリーダーの菅沼直樹先生に話を聞きました!皆さんに分かりやすく報告します。

Student Reporter
学生リポーター

木村 洸さん

KIMURA Ko
人間社会学域法学類3年
金沢大学放送局web-KURS所属



自律型自動運転自動車はこれだ!

GPS
自車の位置を確認



レーザー
360°見渡すことができる

ミリ波レーダー
前方150m程度までの移動物体を検知



中はこんな感じ!
集めたデータを,車内に内蔵されたシステムが処理し,モニターに映し出す

この研究のめざすところは?

高齢化・過疎化が進む地域では,どうしても公共交通機関が乏しい。この車で高齢者の移動支援ができればと思っています。

取材MEMO

平成27年2月からは,高齢化・過疎化が進む石川県珠洲市と連携し,大学では日本初となる市街地一般道での走行実験がスタート!





金沢大学記章【アカンス結バッジ】

平成 27 年 3 月，金沢大学に所属している自覚と誇りを持つために身に付ける「アカンス結バッジ」を制作しました。このバッジは，本学校章のモチーフとして長年親しまれているアカンス（和名：ハアザミ）をもとにデザイン。教職員や就職活動に取り組む学生に貸し出しています。